



区制90周年特別展「豊島大博覧会」を開催 過去から学び、今日を生き、未来に希望



豊島区は令和4（2022）年10月1日から翌年3月26日まで、区制90周年記念の特別展を開催。メイン会場では「豊島大博覧会」の名にふさわしく、明治から令和へと大きな変貌を遂げた豊島区の歩みを600点以上の郷土資料、美術・文学作品とジオラマ・模型、映像で振り返るとともに、区制100周年に向けて発展を続ける豊島区の将来像を大型模型と動画で紹介しています。

◆明治から令和へ、豊島区誕生と繁栄の軌跡を辿り、未来へつなぐ

区内の歴史・文化施設で
豊島区の歩みを紹介

「豊島大博覧会」では郷土資料館をメイン会場とし、雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館、トキワ荘通り昭和レトロ館（昭和歴史文化記念館）の3カ所をサテライト会場と位置づけ、特別展示を行っています。

第1章 豊島区誕生前史 むかしのとしま

明治・大正期の豊島地域は近郊農村で、野菜の産地でした。中山道周辺には野菜の種子屋が集まっていたほか、牧場も区内に延べ60軒ほどあり、大正期には牛乳の生産地でした。

第1章では、当時使われていた農具や種苗カタログ、種子の注文帳、牛乳瓶、半纏、牧場風景を描いた絵画などを展示しています。

また区ゆかりの女性作家や大正7（1918）年に目白で創刊した児童雑誌『赤い鳥』などの児童文化も紹介しています。

第2章 豊島区の誕生と 人々のくらし

としまくのはじまり

豊島区は、昭和7（1932）年10月1日、北豊島郡の巣鴨町・西巣鴨町・高田町・長崎町の4町が合併して誕生しました。第2章では、若い芸術家が集まり住んだ「長崎アトリエ村」の様子を模型で展示しています。池袋モンパルナスの名付け親である小熊秀雄をはじめ、芸術家の作品も一堂に。

また江戸川乱歩や山手樹一郎など豊島区ゆかりの作家の原稿や作品のほか、戦中・戦後の区民の暮らしを生活資料や写真、池袋ヤミ市の模型などで紹介しています。



第3章 豊島区の繁栄と 副都心池袋 さかえるとしま

第3章では、昭和33（1958）年





に副都心となった池袋を中心に、急速な復興を遂げて繁栄していく豊島区を紹介しています。山本高樹氏制作による「旧豊島区役所・豊島公会堂・旧豊島区民センター周辺ジオラマ」「池袋駅東口周辺ジオラマ」「池袋駅西口周辺ジオラマ」は目玉展示として人気を集めています。



第4章は平成・令和の時代。平成27（2015）年には新庁舎（豊島区役所）と超高層マンションが一体となった国内初の複合施設「としまエコミューゼタウン」が完成。その後、旧庁舎と豊島公会堂、豊島区民センター

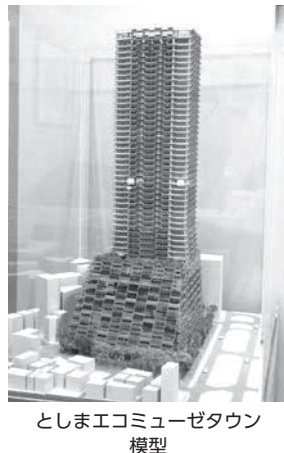
第4章 国際アート・カルチャー都市としまのいま

そのほか、戦後も豊島区に住んだ作家による美術作品、映画館の上映案内やポスター、都電の部品や系統板、銭湯の体重計や湯桶などが壁一面に展示され、昭和のまちの賑わいと人々の暮らしぶりがよくわかります。



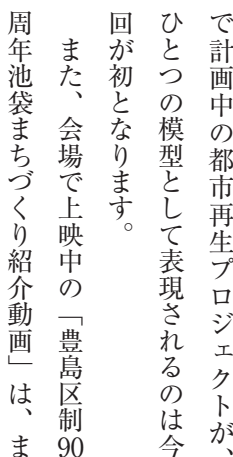
豊島区内を走る電気バス「IKEBUS」や「としまキッズパーク」をはじめ、鉄道車両や駅舎などのデザインをして

第4章の「現在」から第5章の「未来」へつなぐイケちゃんランド



としまエコミューゼタウン
模型

の跡地は令和2（2020）年に8つの大型劇場を備えた新複合商業施設「Hareza池袋」となりました。この章では、建築家・隈研吾氏が携わった「としまエコミューゼタウン」と国立競技場の模型を展示。池袋駅北側東西を結ぶ公共地下通路「ウイロード」や池袋駅北口トイレ「ウイトピア」などを再生した美術作家・植田志保氏の作品と映像も紹介しています。



第5章では、豊島区・池袋の将来像を紹介しています。展示のメインは、幅約1・4m×長さ約2・2mの大型都市模型です。池袋駅周辺の様々な地区で計画中の都市再生プロジェクトが、ひとつの模型として表現されるのは今回が初となります。

第5章 輝く未来としましんじだい



きた水戸岡鋭治氏が設計・デザインしたイケちゃんランドは、会場内の連絡通路にあります。IKEBUSのマスケットである真つ赤なふくろうのイケちゃん、IKEBUSのイラストが床、壁、天井、扉にいっぱい描かれ、豊島区をワクワク旅する楽しい空間となっています。

また、会場で上映中の「豊島区制90周年池袋まちづくり紹介動画」は、ま



ちづくりの過去・現在・未来を、一般初公開のコースも数多く取り入れ、迫力満点の作品となっています。本動画は豊島区公式YouTubeチャンネルでも公開中です。下記二次元コードより併せてご覧ください。



その他の展示パネルとも併せて、区制100周年に向けて発展を続ける池袋駅周辺の将来像を、余すことなく体感することができます。



としま産業振興プラザ

住所：豊島区西池袋 2-37-4
としま産業振興プラザ (IKE・Biz) 7 階
TEL：03-3980-2351
開館時間：9 時～16 時 30 分
(2023 年 3 月 26 日までは 18 時まで開館)
休館日：月曜日（祝日と重なる場合はその翌日も）、第 3 日曜日、祝日、年末年始、
展示替えにともなう臨時休館
入館料：無料



郷土資料館は、歴史・考古・民俗に関する資料を中心に収集・保存し、調査・研究し、その成果を展示等を通して区民に還元していくことを目的に、昭和 59（1984）年に開館しました。その後、建物の大規模改修工事にともない平成 29（2017）年に展示をリニューアルしました。常設展示のほか、年に数回、郷土資料、美術、文学・マンガの 3 分野が連携した企画展や収蔵作品・資料展を開催しています。

豊島区立郷土資料館

メイン会場を見学したあとは 区内 3 力所のサテライト会場へ

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

雑司が谷旧宣教師館は、明治 40（1907）年にアメリカ人宣教師マツケールが居宅として建てたもので、区内に現存する最古の近代木造洋風建築であり、東京都内でも数少ない明治期の宣教師館です。昭和 57（1982）年に豊島区が取得し、平成元（1989）年から一般公開しています。平成 4 年に豊島区指定有形文化財（建造物）に、平成 11 年には東京都指定有形文化財（建造物）に指定されました。

展示室ではマツケールの日本での活動や生活のほか、雑司が谷ゆかりの文化人についても紹介しています。『赤い鳥』コーナーでは、豊島区で誕生した児童雑誌『赤い鳥』（復刻版）をはじめ、関連図書や雑誌を閲覧できます。

サテライト会場としては、区制 90 周年企画展「としまと『赤い鳥』」区制 90 年を彩る児童文化」を開催。『赤い鳥』を主宰した鈴木三重吉、童話を寄稿した芥川龍之介、童謡部門を担った北原白秋、表紙や挿絵を描いた深澤省三、三重吉の理想を受け継ぎ童話雑誌『びわの実学校』を創刊した坪田譲治を取り上げ、代表作やエピソードを紹介しています。毎月第 1 土曜日には詩人の小森香子氏による童話の朗読会『赤い鳥』を語り継ぐ、おばあちゃんのおはなし会が開かれます。

住所：豊島区雑司が谷 1-25-5
TEL：03-3985-4081
開館時間：9 時～16 時 30 分
休館日：月曜日、第 3 日曜日、祝日の翌日（翌日が日曜日の場合は翌週火曜日）、年末年始、臨時休館日
入館料：無料



豊島区立鈴木信太郎記念館

フランス文学者として活躍した鈴木信太郎（1895～1970）の旧宅「旧鈴木家住宅」（平成24（2012）年に豊島区指定有形文化財指定）を改修・整備し、平成30年に鈴木信太郎記念館として開館しました。昭和3（1928）年建築の書斎棟、昭和21年建築の茶の間・ホール棟、明治20年代の建築で昭和23年に現在の埼玉県春日部市の鈴木本家から移築した座敷棟の3棟からなる建物は、3つの時代の生活様式がわかる希少なものです。常設展示では、書斎棟において主にフランス文学に関する信太郎の著作と蒐集資料を「フランス文学の受容と展開」「象徴主義フランス詩の世界」等、5つのコーナーに分けて紹介しています。加えて建築図面や書類など建物の増改築の変遷を物語る資料を展示しています。

サテライト会場としてのテーマは、区制90周年企画展「鈴木家の暮らし×としま90年」。茶の間にこの家です実際に使われていた家具や調度品に加えて信太郎の等身大パネルも展示し、鈴木家の昭和の暮らしを再現しました。座

敷棟では、信太郎の長男で建築学者・

建築家の成文（1927～2010）が

晩年に綴った日記をもとに「としまカ

ルタ」を作り、来館者の皆さんにもご

参加いただき完成させる参加型展示を

行っています。

住所：豊島区東池袋5-52-3
TEL：03-5950-1737
開館時間：9時～16時30分
休館日：月曜日（祝日と重なる場合はその翌日も）、第3日曜日、祝日、年末年始、
展示替えにともなう臨時休館
入館料：無料



書斎棟内観



座敷棟外観



トキワ荘通り昭和レトロ館 （豊島区立昭和歴史文化記念館）

トキワ荘通り昭和レトロ館は、昭和20年代に建てられた戦後マーケット「味楽百貨店」の建物の一部を豊島区が借上げ、マンガ・アニメによるまちづくりの活性化と昭和の歴史・文化の継承のため、令和4年11月3日にオープンしました。同館2階の展示室では、郷土史家矢島勝昭氏によるおもに戦前・戦中期の日常生活を題材とした絵画等が展示されている「矢島勝昭昭和のくらしギャラリー」、またかつての和室六畳間の生活を再現した「昭和のくらし～昭和40年頃の日常～」を常設展示しています。

多目的室2で開催されている区制90周年特別企画展「タイムトリップ 豊島区の90年」では、昭和から平成にかけて撮影された風景と、ほぼ同じ場所から撮影した現在の風景を比較対照し、時代の移り変わりを読み解く展示です。併せて山本高樹氏制作の「人世横丁」と「神田川周辺」ジオラマも公開。そのほか企画展として、ドールハウス、キューブ型パズルといった昭和の時代から現在まで支持されているお

住所：豊島区南長崎3-4-10
TEL：03-3565-6991
開館時間：10時～18時
（入館は17時30分まで）
休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始、
展示替え期間
入館料：無料
（※1階マンガピットは有料）



「昭和のくらし～昭和40年頃の日常～」
展示風景